

# 第7章 防災指針

## 1 防災指針の基本的な考え方

防災指針は、居住や都市機能の誘導を図る上で、必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針です。

居住誘導区域内にある災害リスクに対して、できる限り回避あるいは低減させるため、必要な防災・減災対策を計画的に実施していくことが求められています。このため、災害リスクを踏まえた課題を抽出し、都市の防災に関する機能の確保のため、防災指針を定めるとともに、この指針に基づく具体的な取組を位置付けます。

本計画では、居住誘導区域内に想定最大規模の洪水浸水想定区域が定められているとともに、土砂災害特別警戒区域等が設定されており、この防災指針により災害リスクを低減する必要があります。以下に防災指針設定フローを示します。

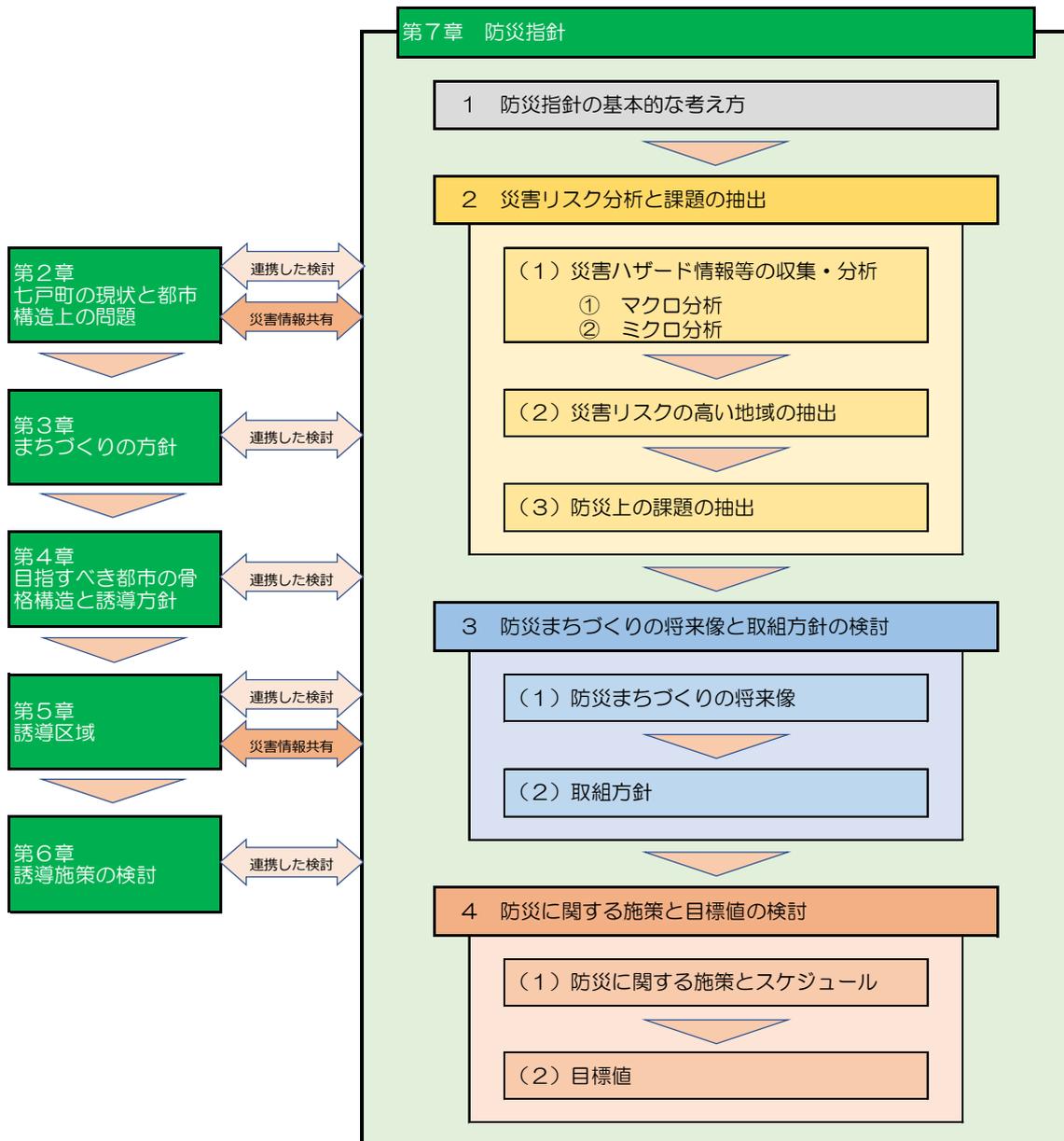


図 7-1-1 防災指針設定フロー

## 2 災害リスク分析と課題の抽出

### (1) 災害ハザード情報等の収集・分析

災害ハザード情報等は、以下より収集しています。なお、個々の災害ハザードの指定区域図は、「第2章七戸町の現状と都市構造上の課題 1 町の現状と将来の見通し (6) 災害ハザード」や、「第5章誘導区域 1 居住誘導区域 (2) 居住誘導区域の設定」に掲載しています。

ここでは、災害ハザード情報や建物分布状況等を重ね合わせて、さまざまなパターンにおける災害リスク分析と、分析による課題の抽出を行います。

#### ○土砂災害ハザードエリア情報

##### ◆急傾斜地崩壊危険区域

青森県の告示資料をもとに平成29年度都市計画基礎調査で作成した図面

##### ◆土砂災害特別警戒区域/土砂災害警戒区域

七戸町土砂災害ハザードマップより編集

#### ○水災害ハザードエリア情報

##### ◆洪水浸水想定区域（計画規模）（2日間の総雨量246.0mm）

平成31年1月23日青森県告示第37号

青森県高瀬川水系高瀬川洪水浸水想定区域図

青森県高瀬川水系赤川洪水浸水想定区域図

##### ◆洪水浸水想定区域（想定最大規模）（2日間の総雨量396.7mm）

平成31年1月23日青森県告示第37号

青森県高瀬川水系高瀬川洪水浸水想定区域図

青森県高瀬川水系赤川洪水浸水想定区域図

##### ◆家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）（2日間の総雨量396.7mm）

青森県高瀬川水系高瀬川洪水浸水想定区域図

#### ○地形

##### ◆国土地理院 地理院地図 淡色地図

##### ◆国土地理院 地理院地図 自分で作る色別標高図

#### ○建物立地状況

##### ◆建物立地状況

平成29年度都市計画基礎調査

##### ◆指定避難所等

七戸町ハザードマップ（令和2年3月）

## ①マクロ分析

マクロ分析では、七戸町全体を見渡して災害リスクを分析します。

- ・土砂災害リスクとして、急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域が散在している。
- ・水害リスクとして、高瀬川（七戸川）や赤川沿いに洪水浸水想定区域（想定最大規模）及び家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）が指定されている。
- ・町西側の山地で豪雨があった場合、町東側で降雨がなくても、川沿いで洪水災害が起きる可能性がある。

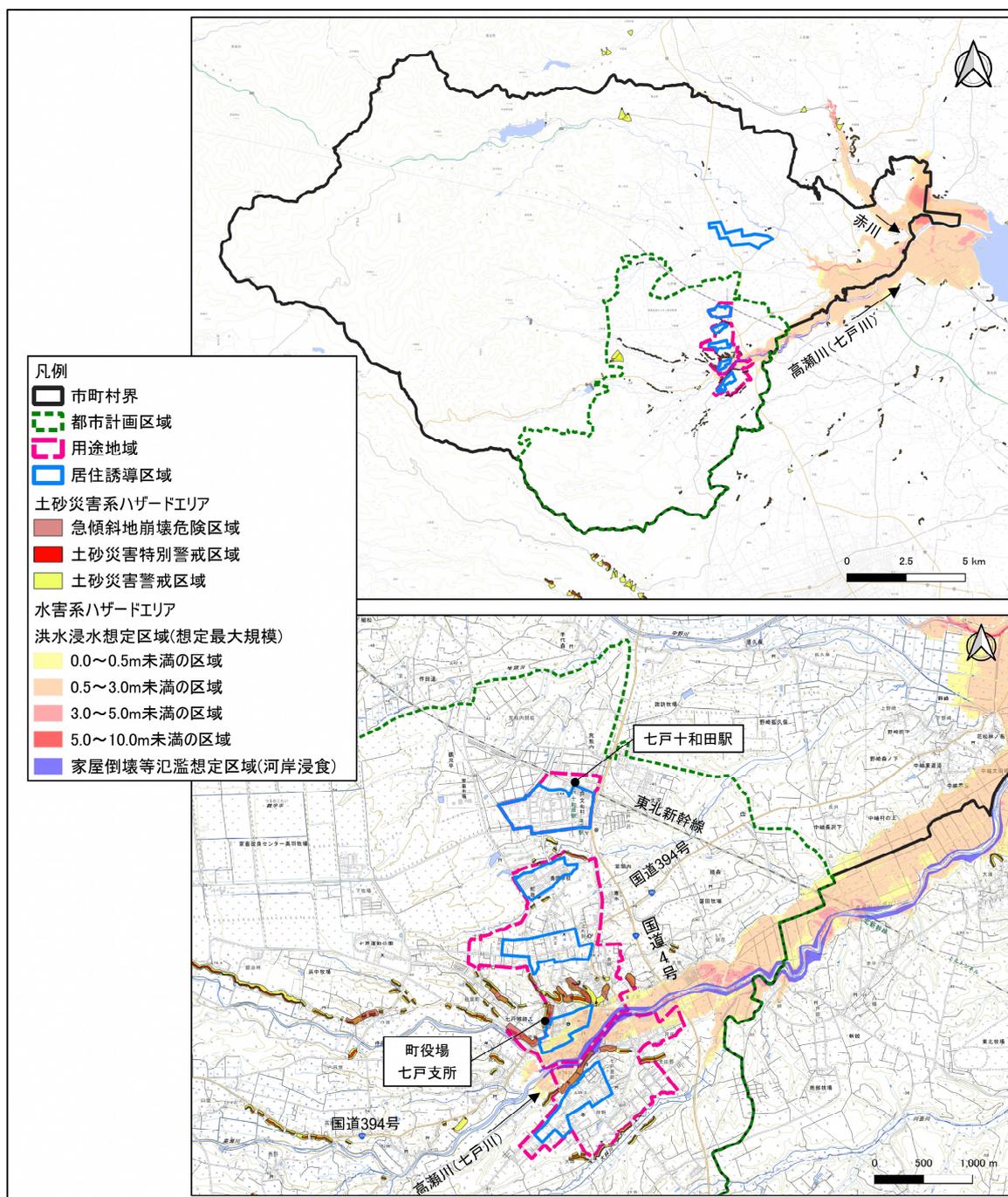


図 7-2-1 七戸町の災害マクロ分析

## ②ミクロ分析

ミクロ分析では、用途地域内を見渡して災害リスクを分析します。

### ○災害ハザード×地形×施設の立地状況

- ・高瀬川（七戸川）の周辺には河岸段丘が形成されており、洪水浸水想定区域（想定最大規模）は谷底平野から段丘崖までの範囲であるが、この範囲では、洪水発生時の浸水深が大きくなる懸念がある。
- ・谷底平野に立地する医療施設、福祉施設、商業施設等では、洪水浸水や河岸浸食などによる施設の被害により、施設利用者の被害のリスクが考えられる。
- ・段丘崖には、土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域が指定されている箇所があり、大雨時には土砂災害の発生も想定する必要がある。

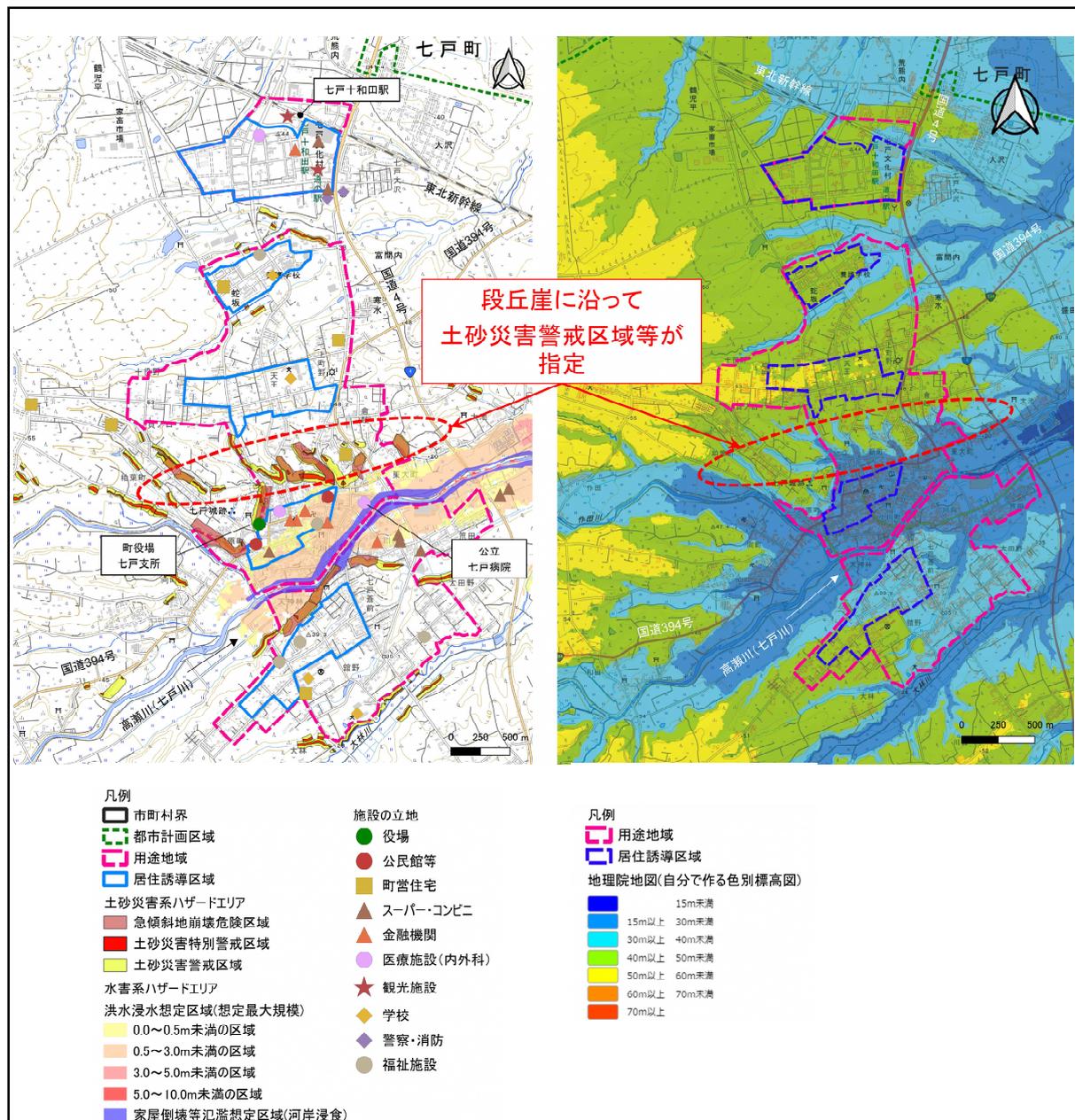


図 7-2-2 災害ハザード×地形×施設の立地状況

メモ：<sup>か げ ん だ ん き ゅ う</sup> 河岸段丘 <sup>こ く て い へ い や</sup> ・ 谷底平野

中流部では上流部から運ばれた土砂が堆積し、山間の間を埋めた比較的幅の広い平坦な土地を、**谷底平野**といいます。

川は土地の隆起で流れる場所が高くなったり、気候の変動で海面が低下したり降水量が多くなったりすると、浸食力が増して谷底平野を削り、より下流に土砂を運んでいきます。そして、川より高く平らな形で残った平坦面（**段丘面**）と、削られてできた崖（**段丘崖**）からなる土地が出来上がり、これを**河岸段丘**といいます。

河岸段丘（イメージ断面図）

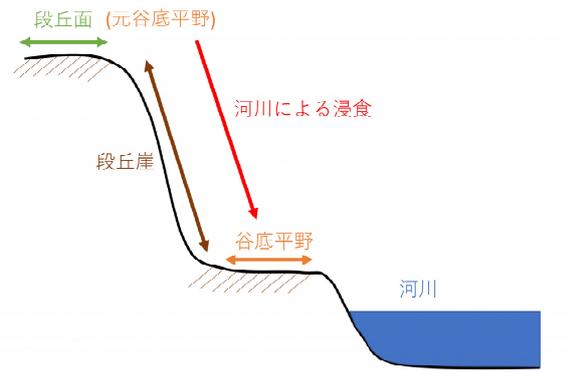


図 7-2-3 河岸段丘（イメージ断面図）

※文章は「山から海へ川がつくる地形（国土交通省国土地理院）」より引用

- 洪水浸水想定区域（想定最大規模）×家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）
- ×指定避難所等から直線半径 500m

- 想定最大規模の洪水浸水想定区域に指定された一部地域において、指定避難所等までの距離が直線半径 500m 以上あり、浸水発生後の避難行動は被災リスクが伴うことから、洪水災害発生前に早期の避難が必要である。

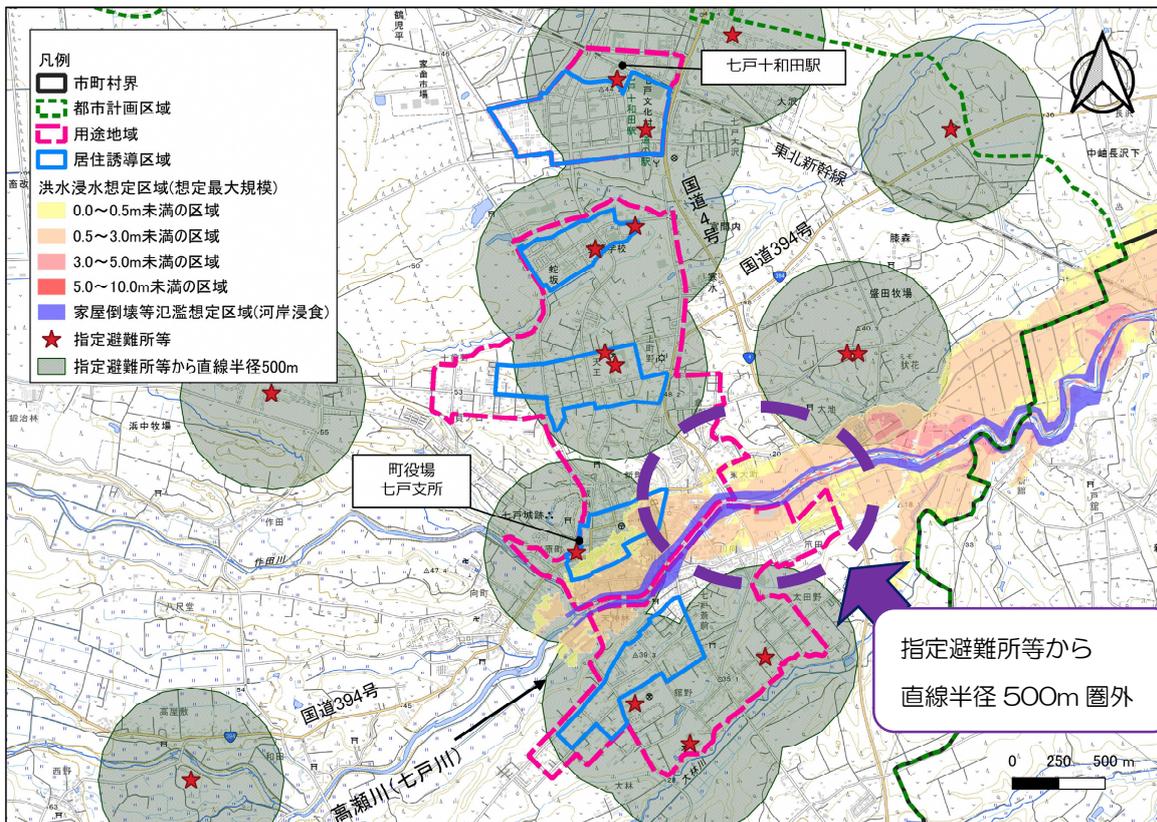


図 7-2-4 洪水浸水想定区域×家屋倒壊等氾濫想定区域×指定避難所等

## (2) 災害リスクの高い地域の抽出

災害リスクの高い地域として、洪水浸水想定区域がある高瀬川（七戸川）周辺を抽出します。

○洪水浸水想定区域（想定最大規模）（L2）×家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）

×建物分布・階数

- 想定最大規模の洪水浸水想定区域（L2）は町役場七戸支所付近まで指定されており、区域内の一部の建物においては3.0m程度の浸水深が想定され、1階建ての建物では、垂直避難が困難な状況も考えられる。
- 高瀬川（七戸川）沿いには家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）も指定されており、洪水時の被災リスクが周辺よりも高いと考えられる。

※L2：洪水浸水想定区域レベル2、想定最大規模

< 想定最大規模（L2） >

### ■洪水浸水想定区域（想定最大規模）（L2）

指定の前提となる降雨：高瀬川流域の2日間総雨量 396.7mm

### ■家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）

指定の前提となる降雨：高瀬川流域の2日間総雨量 396.7mm

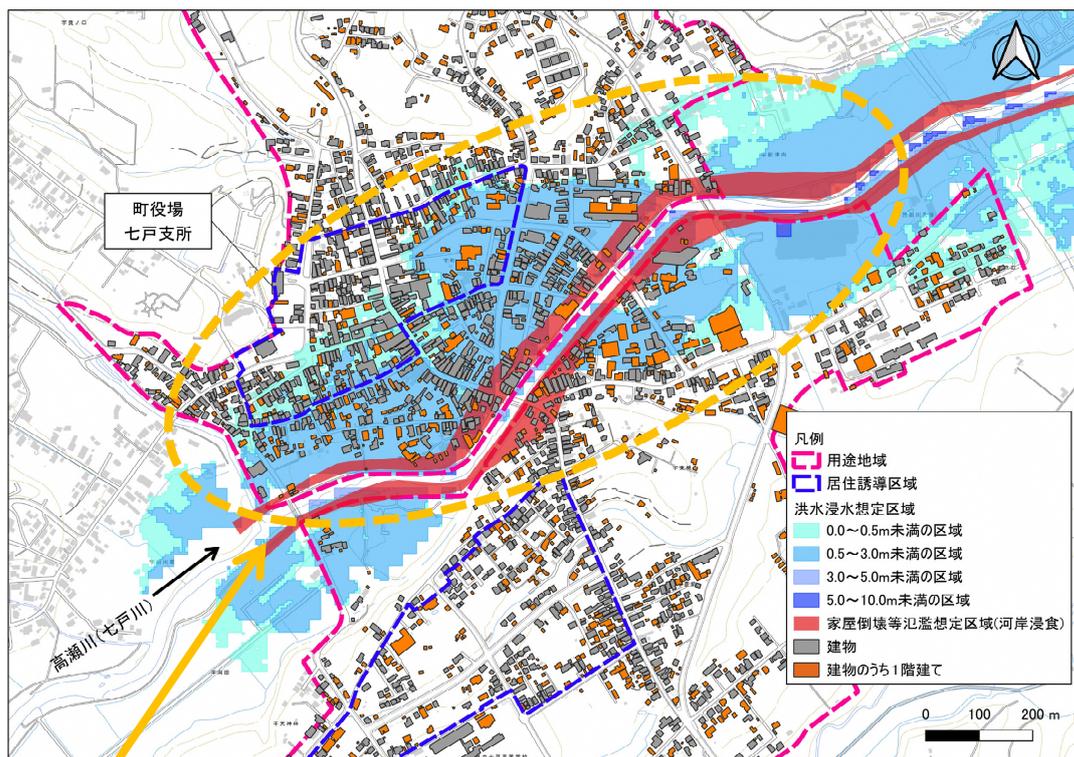


図 7-2-5 洪水浸水想定区域（想定最大規模）（L2）×建物分布・階数

洪水浸水想定区域内（想定最大規模）（L2）に1階建ての構造の建物が分布している  
一部建物は家屋倒壊等氾濫想定区域内に分布している

○洪水浸水想定区域（計画規模）（L1）×建物分布・階数

- 計画規模の洪水浸水想定区域（L1）においても、一部の1階建の建物が3.0m程度の浸水のおそれがある範囲に含まれている。

※L1：洪水浸水想定区域レベル1、計画規模

<計画規模（L1）>

■洪水浸水想定区域（計画規模）（L1）

指定の前提となる降雨：高瀬川流域の2日間総雨量 246.0mm

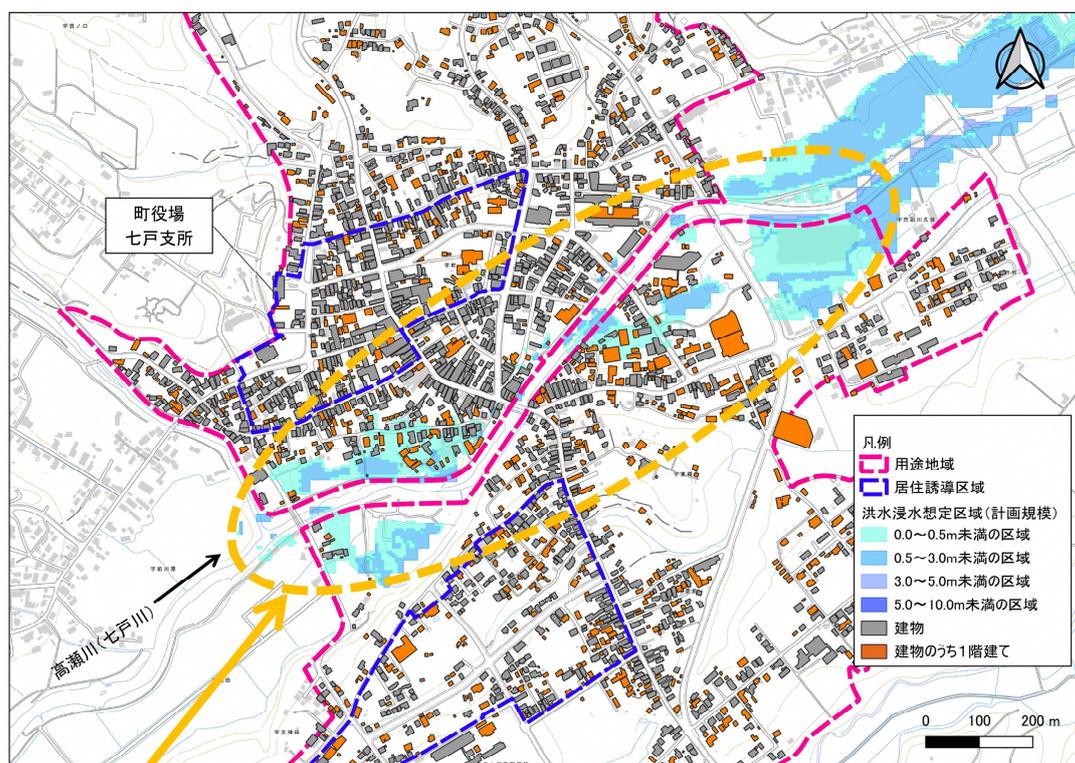


図 7-2-6 洪水浸水想定区域（計画規模）（L1）×建物分布・階数

計画規模の洪水浸水想定区域（L1）においても一部の1階建の建物が区域内に分布している

### (3) 防災上の課題の抽出

災害ハザード情報やマクロ分析、ミクロ分析、災害リスクの高い地域の抽出により、防災上の課題を次のとおり整理します。

表 7-2-1 防災上の課題

No	災害	課題
①	洪水	まちの拠点となる地域だが、一定の浸水リスクはある。
②		想定最大規模の洪水において、平屋建てが多く、浸水深によっては、垂直避難が困難なところがある。
③		近くに指定避難所等がなく、避難行動にリスクが伴う。
④	土砂災害	土砂災害のリスクがあるが、住宅が建ち並んでいるところがある。

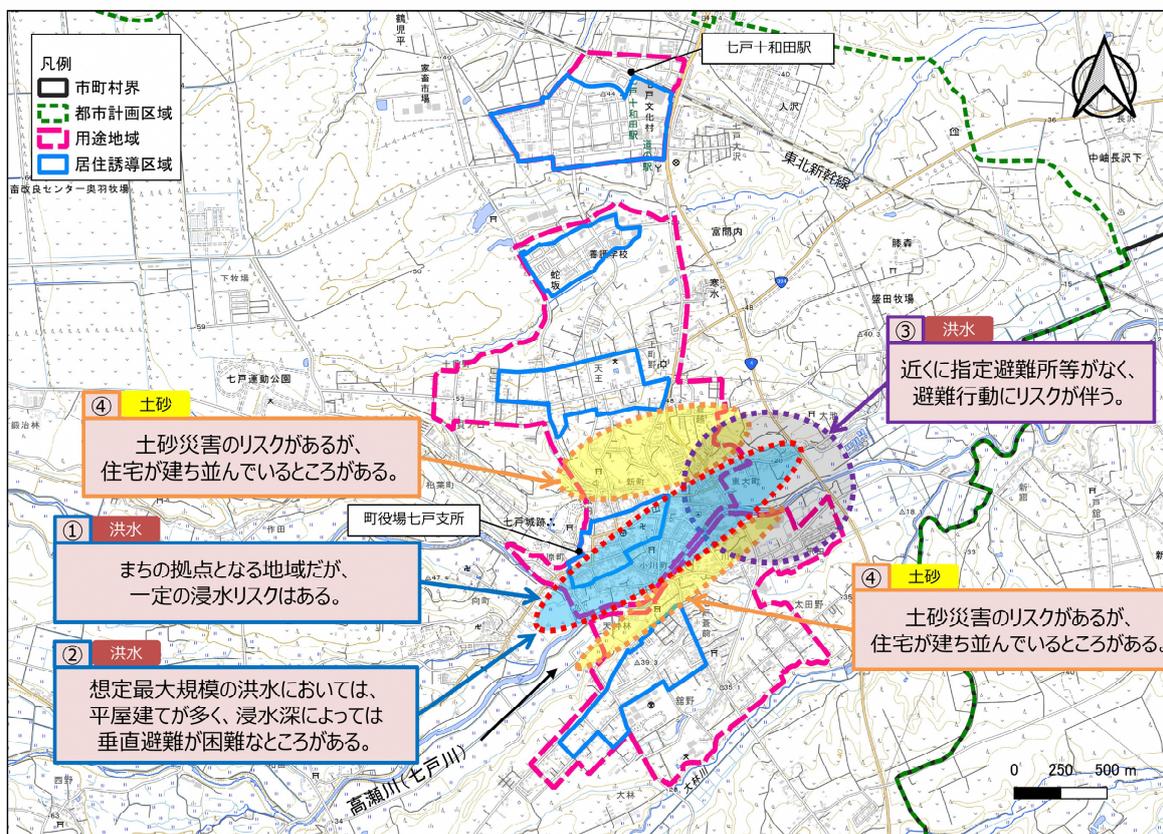


図 7-2-7 防災上の課題

### 3 防災まちづくりの将来像と取組方針の検討

#### (1) 防災まちづくりの将来像

都市の防災に関する機能の確保に向け、防災まちづくりの将来像は以下の通りとします。

防災まちづくりの将来像

地域防災力を高める協働のまちづくり

#### (2) 取組方針

防災まちづくりの将来像の実現に向け、取組方針は以下のとおりとし、災害リスクの低減や回避を行います。

表 7-3-1 取組方針

No	災害	課題	低減/回避	方針
①	洪水	まちの拠点に 浸水リスクあり	リスクの 低減	避難計画・備蓄計画を強化する。
②		平屋建てでは 垂直避難が困難	リスクの 低減	住民に対し、浸水深を考慮した階層の建築を促す。
③		近くに指定避難 所等がない	リスクの 回避	誘導区域には設定せず、避難計画・備蓄計画を強化する。
④	土砂 災害	住宅に土砂災害 のリスクあり	リスクの 回避	誘導区域には設定せず、居住の移転を促進する。

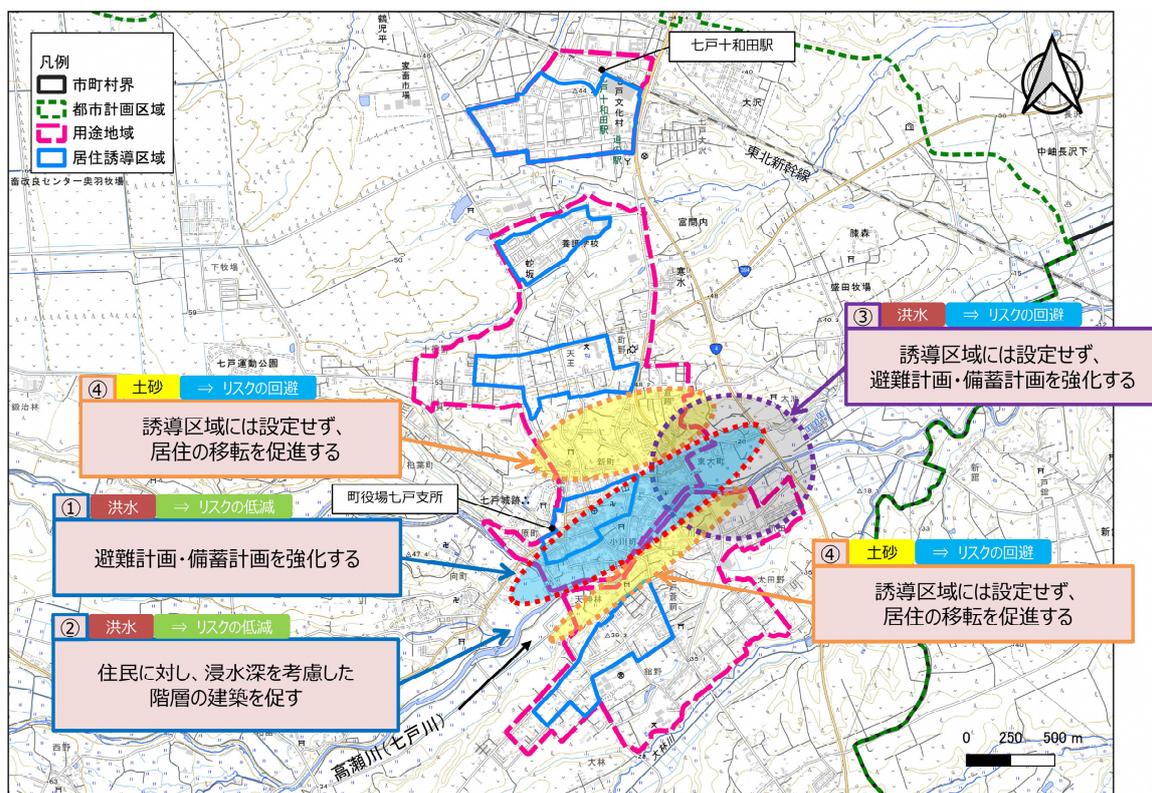


図 7-3-1 防災まちづくりの将来像と取組方針

## 4 防災に関する施策と目標値の検討

### (1) 防災に関する施策とスケジュール

取組方針に基づく施策とスケジュールを、以下のように設定します。

表 7-4-1 取組内容とスケジュール

No	リスク 対策	ハード/ ソフト	施策内容	実施主体	実現時期の目標		
					短期 (5年)	中期 (10年)	長期 (20年)
①	低減	ソフト	避難所運営マニュアル作成	七戸町 (総務課)	→		
②	低減	ソフト	住民参加型の避難訓練実施	七戸町 (総務課)	→		
③	低減	ソフト	福祉避難所との連携強化	七戸町 (健康福祉課)	→	→	
④	低減	ソフト	立地誘導	七戸町 (企画調整課)	→	→	→

### (2) 目標値

本計画における防災指針の目標値は、以下のように設定します。

表 7-4-2 防災指針における目標値

No	目標指標	指標の定義	基準値	目標値
①	避難所運営マニュアルの運用	避難所運営マニュアルによる運営訓練の実施回数	マニュアル作成 (2021年)	年1回開催 (2025年)
②	避難訓練	町で実施する避難訓練の回数 (地震・洪水等)	未実施 (2019年)	年1回開催 (2025年)
③	備蓄品が備えている避難所の数	非常時備蓄品等が備えられている指定避難所等	1箇所 (2020年)	5箇所 (2025年)
④	福祉避難所の利用に係る協定の締結施設数	災害発生時に要配慮者を受け入れることを協定で締結した社会福祉施設等の施設数	8施設 (2019年)	11施設 (2030年)
⑤	浸水深 3.0m 以上の平屋の戸数	<u>居住誘導区域内</u> の洪水浸水想定区域(想定最大規模)における浸水深 3.0m以上の平屋の戸数	37戸 (2017年)	-5戸 (2040年)
⑥	浸水深 3.0m 以上の平屋の戸数	<u>用途地域内</u> の洪水浸水想定区域(想定最大規模)における浸水深 3.0m以上の平屋の戸数	183戸 (2017年)	-20戸 (2040年)